

初夏の大野城跡(四王寺山)を巡ってみませんか

市名の由来でもある大野城跡を見学する史跡めぐりを行います。昨年整備した「大野城歴史の散歩道」を通じて大野城跡へ登り、建物の跡や防御のための土塁・石塁などを見学します。大野城が造られた1350年前を思い浮かべながら、初夏の一日を過ごしてみませんか。

※急な山道や階段もありますので、体力に自信のある人のみ参加してください。

●日時 6月3日(土)
午前10時～午後5時

※当日午前7時前のNHK天気予報で降水確率50%を超えた場合は中止します。不明の場合は、市コールセンター☎(501)2211へ問い合わせてください。

- 集合と解散場所 県民の森乙金駐車場 (総合体育館上)
- 定員 30人 (先着順)
- 参加費 無料



- 持ってくるもの ◇昼食◇水筒
- 山歩きができる服装・靴で来てください。
- 申込期間 5月16日(火)～26日(金)
- 申し込みと問い合わせ先
ふるさと文化財課発掘調査担当
☎(580)1917



あけてみよう！歴史のとびら 拾い歩き！大野城市の地名② (94)

一 歴史深い牛頸の地名

「牛頸」の地名は、江戸時代に書かれた『筑前国続風土記』に「天判山(天拝山)の西北に有て、山の間にある村なり。谷中長さ二十四、五町あり。上村の間にひきき長き山あり、その形牛の首をのへたるに似たり。故に名つく。牛頸村の谷下は那珂郡春日村なり。」とあり、『筑前国続風土記拾遺』には、「牛の頸に似たる山は此祠堂本の西なる古野山を指せりといふ。」と補足されています。

この古野山は、平野神社の西側にあり、現在は牛頸浄水場となっています。今はそのおもかげもありませんが、古い写真を見ると、なだらかに下る山の形は『続風土記』にあるとおりの様子です。また浄水場の近くに「胴の元」の地名もあり、関連があるように感じます。

この「牛頸」の地名ですが、中世や江戸時代の古文書、明治時代の地誌には「牛頭」と書かれ、ウシクビと読むこともありました。最もさかのぼるものでは、天文3年(1534年)の古文書に登場しており、もともと牛の頭のような地形から命名されたと考えられています。

●問い合わせ先
歴史資料展示室(市役所新館3階)
☎(580)1918



牛頸公民館と城の山

左の写真の奥側に見える、牛頸公民館の向かい側にある山には、「城の山」の地名があります。ここには不動城または牛頸城と呼ばれた中世の山城があります。その周辺には、「武士町」「城の下」など、城にまつわる地名が多く残っています。また、牛頸には「牛頸千軒七か寺七浦」の言葉があり、たくさんのお寺やお寺があったと言われています。お寺と思われる地名には、大行寺、大立寺、東小寺など、浦とつく地名には、月ノ浦、日ノ浦、原浦などがあります。牛頸は、6世紀から9世紀にかけてたくさん須恵器窯が作られ、その工人の集落も見つかっています。こうした歴史が地名に残されているのかもしれない。

